

ガーデンシティ舞多聞 てらいけプロジェクト 第6回公開講座を開催しました

2012年6月9日(土)午後1時30分より、神戸芸術工科大学クリエイティブセンターで第6回公開講座を開催し、これまでの開催で最多となる36組55名の方にご参加いただきました。

【プログラム】

■講演(13:30スタート)

「みつけプロジェクトのまちづくり」

神戸芸術工科大学 齊木学長

「てらいけプロジェクトのまちづくりの魅力」

神戸芸術工科大学 佐々木特別准教授

■質疑

■今後の予定

15:30 終了



第6回公開講座終了後に参加者の皆さんと記念撮影

■「みつけプロジェクトのまちづくり 神戸芸術工科大学 齊木崇人 学長

先行のみつけプロジェクトに携わってこられた齊木学長から、ガーデンシティ舞多聞・みつけプロジェクトが計画された経緯について、イギリス・レッチワースの経験や田園都市会議(2001年)の議論、そして阪神淡路大震災とオールドニュータウンの衰退問題も含めて説明していただきました。

みつけでは、①コミュニティデザイン②マネジメント③空間デザインの3つのコンセプトを掲げていますが、特にコミュニティに着目し、「住む人が誇りをもてる魅力ある空間」の実現には、住む人が価値感を共有でき、さらに魅力ある空間を暮らしの中で持続できるコミュニティマネジメントが必要とのことでした。

その具体的な取組として、住む前から、まちのルールである建築協定や緑地協定を住まい手が中心となって作ったこと、その結果まちのイメージが共有されたこと、そして現在も住民の皆さんでルールを運営されていること等について説明されました。みつけでは、入居6年目を迎えて新たな課題も生まれる中、コミュニティが積んできた経験を活かして、次のステップへと向かっているとのことでした。

45分間に亘る説明の間、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けられ、アンケートでも講演内容に大変好評なご意見を多くいただきました。



齊木学長の講演に熱心に耳を傾けられる参加者の皆さん

【参加者の皆さんの感想①】 齊木先生の講演についてアンケートのコメントから抜粋

- ・レッチワースの街を訪れたいと思いました。
- ・大変興味深かった。ただ純粋に住宅地として展開した場合、年齢層がやや画一的になる可能性が気になるか。現在の年齢構成がどうかを聞きたかった。
- ・アメリカカリフォルニア州で5年間を過ごし、素晴らしい町並み、公園の中で住むことができました。日本で神戸・垂水でこのような素晴らしいプロジェクトが実現することに感動しています。
- ・みつけプロジェクトが目指す方向、理念がよく理解できました。完成した街並みを見て、日本にない雰囲気、外観に感動しましたが、理念が実現した事が理解できました。
- ・企画段階から現在に至るコンセプトが良く判りました。住民をサポート&リードされた住学協同作業の中で大学のあり方も理解できました。

■「てらいけプロジェクトのまちづくりの魅力」 神戸芸術工科大学 佐々木 宏幸 特別准教授

続いて、佐々木特別准教授により、「てらいけプロジェクトのまちづくりの魅力」と題して、アメリカの先進的コミュニティ事例とそこに共通する「そこに住むことを誇りに思えるまち一価値の共有」などの紹介を含め、これまでの5回の公開講座を振り返りました。また、一般的な宅地開発とは異なるてらいけプロジェクトの特徴として以下の3点について説明されました。

①電線の地中化：敷地の道路境界から2.5mには歩行空間と植栽帯があり、連続したオープンスペースの下に電線が入る。電線類の設置と維持管理は電力事業者が行うが、これに住民が協力することで価値ある街並みができる。

②「まちづくりのルール」：個々の住宅だけでなく、向いや隣の家との間の空間作りに最大限配慮することで、まち全体の価値を上げることができる。

③多様な宅地タイプ：先進事例のような100年以上受け継がれるコミュニティは、その中でいろんな世代の人が住むということ。てらいけでは、ニーズに応じた多様な宅地タイプを提供していく。

これらの特徴はてらいけ全体の価値を高めるものであり、その価値を住民が共有することが、先述の「そこに住むことを誇りに思えるまち」になるとのことでした。

佐々木先生の講演でも、参加者の皆さんはメモを取られたり、熱心に清聴されている姿が印象的でした。またてらいけプロジェクトが目指すまちづくりを十分理解し、共感いただいていることがアンケートからも読み取れました。



佐々木特別准教授の講演に
熱心に耳を傾けられる参加者の皆さん

【参加者の皆さんの感想②】 佐々木特別准教授の講演についてアンケートのコメントから抜粋

- ・てらいけプロジェクトの三つのテーマについて、わかりやすい説明がなされてよくわかった。特に電線が地中化した前面の歩道のとりきめ、ルールがうまく機能してほしい。
- ・豊かな未来の町づくりは、住む人々により、すばらしい住環境、コミュニティになる事がわかりました。
- ・みついけの理念を受け継いだプロジェクトに加え、多様な街づくりという説明に賛同。その住民になりたいと思いました。
- ・わかりやすい説明。価値ある町づくりの実現のためのルールということがわかりました。

【参加者の皆さんの感想③】「てらいけプロジェクトに期待すること」についてアンケートのコメントから抜粋

- ・街の安心、安全コミュニティ、豊かな自然
- ・小学生以下の50年以上住む可能性のある人達が、考えながら環境を造り、維持し、必要に応じて、改変していくようなイメージを期待しています。
- ・神戸を代表する街並み、芦屋と同じ様に、広く何年先も誇れる街になってほしい。
- ・ゆとりある敷地に緑豊かな居住空間が安価で実現できること、同じような価値感の人とともにまちづくりができること
- ・時と共に価値が増すような町、コミュニティの維持

○質疑

講演後、「ルールは与えられるものとの意識であり、ルール作りを住民自ら行うことについて我が国ではなじみが少ないのでは？」とのご質問がありました。先生方からは、「先進的な試みと理解して欲しい。みついけでは住民が自分たちの敷地内だけでなく、まち全体の価値を上げるといった話が積みあがった」「ルールは作る事が目的ではなく、自分達が住みたいまちを実現するために、ルールが必要であるということであり、どういうルールがあるかではなくて、どういう価値感を共有するかが重要」と、丁寧に説明いただきました。

○今後の予定

UR都市機構より、てらいけエリアの工事の完成予定時期等について説明がありました。

25年度春の募集に向けて、北側エリアは先行して24年度末完成を予定し、エリア全体は25年度上半期完成を目指しています。また、今後の公開講座は第7回を9月下旬、第8回を11月頃に予定し、てらいけのルールの検討と、基本的なまちづくりの考え方の紹介を予定します。また秋頃からグループ募集のワークショップも進める予定です。ぜひご参加ください！！